令和５年度学校評価報告書

令和６年３月26日

北海道教育委員会教育長　様

北海道釧路明輝高等学校長　印

次のとおり令和５年度の学校評価について報告します。

１　本年度の重点目標

(1) 「地域創生」地域連携を推進し、地域課題解決に向けた探究活動を実践することで、地域に誇りを抱き、地域の将来を支える人材を育成する。
(2) 「自己実現」都市型総合学科高校の特性を生かし、多様な科目設定と系統的なキャリア教育により、生徒の多様な進路希望の実現に応える。

２　自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校運営	・本校の現状や課題、今後の展望について広く意見を聴取する機会を創出する。 ・コロナ禍を経て、持続可能なものはブラッシュアップさせ、働き方改革の観点からも分掌や年次業務、学校行事等の精選を図る。 ・スクール・ミッション、ポリシーにおいて魅力ある学校づくりの定義を再確認する。そこに必要な教育の柱を全教職員、保護者や生徒、地域で共有する。また、入学者選抜のあり方についても検討していく必要がある。	・総合学科としての役割や教育活動について、地域の理解が深まっている様子である。 ・コロナ禍が開け、外部機関や地域との関わりがある取組が再開され、生徒の校外での活動も見えるようになり、評価できる。 ・高校入試の形態も変わり、推薦選抜の倍率も高く、今後も高い水準で推移するものと予想する。明輝高校に対し、より高い目的意識を持った生徒が多く入学することを期待するとともに、学校の教育活動の充実を目指してほしい。
改善方策	・興味関心に応じた教科・選択科目の配列を活かし、質の高い教科指導と探究活動をとおして、進路実現につなげるカリキュラム・マネジメントの実施に努める。 ・スクール・ミッションにおいて生徒の実態、保護者や地域の意見を踏まえ、全教職員で再確認し、共有していく。	
学習指導	・探究活動における表現力は年々向上していると感じる。今後は、課題設定や調査研究等、内容の充実をより一層高い質において探究活動を進める観点を重要視する。 ・教科指導と評価の在り方について、校内研修を開催し、共通認識を図ることが必要である。 ・間口減、教員数減に伴う開設科目の工夫と精選。	・発表会等での成果は十分に感じられるが、それまでの過程をとおして、生徒自身がどのような自己成長を感じ取っているか認識させる必要があると感じる。 ・教員側の苦労もあるが、進路選択に向けて、本校の特色ある系列を活かし、学びを進路実現につなげる教育に尽力いただきたい。
改善方策	・総合的な探究の時間の活動を基本とし、各教科においても横断的な学習を取り入れている場面や内容が多く見られる。改めて研修機会を設けるなどして、より充実した探究活動を目指す。 ・生徒の実態や多様な進路希望を踏まえ、教育課程委員会において開設科目の見直し等も進め、間口減、教員数減も勘案した、適切な教育課程の編成に努める。	
生徒指導（いじめ問題を含む）	・いじめ対策や教育相談に係る取組が組織的に行われ、スクールカウンセラーや外部機関と連携した活動が見られる。 ・生徒指導規定について、生徒の実態や時流に合わせた内容に検討、改訂していく必要がある。	・日常的に生徒指導や教育相談をきめ細かく展開されていると思うが、教職員の多忙感が心配である。必要に応じて、外部機関と連携を図るなどして、組織的な対応に努めていただきたい。
改善方策	・生徒指導における規定については、生徒の実態や時流にあわせた内容とすることが必要であり、生徒指導部を中心として共通認識のもと見直しを推進する。 ・いじめ対策や自殺予防等の取組をアンケートや教育相談、スクールカウンセラーの活用を図りながら、今まで以上に組織的な対応を構築する。	
進路指導・キャリア教育	・全国総合学科成果発表会での発表は３年間の取組の成果に値した。 ・「産業社会と人間」と「総合的な探究の時間」を総合的に実施する中で、キャリア教育分野と探究学習活動計画を明確に配置していく。 ・外部協力のもと推進している特色あるキャリア教育もあるが、精査しながら実施を検討する必要がある。	・本校の魅力として、高等学校における探究活動の充実が必要不可欠である。また、多様な進路実現も本校が応えていくべき使命でもあり、積極的に指導の改善に努めてほしい。 ・企業や釧路ハイスクールコンソーシアムを活用して、より充実した探究活動を目指してほしい。
改善方策	・全国総合学科成果発表会・全道総合学科発表会での発表経験を模範例として、後輩に還元できた今年度の取組を継続させる。 ・キャリア教育部に副部長を３名配置（SC[*1]担当：就職担当：進学担当）。また、各学年にSCを担当する教員が入り、副部長を中心に系統的にSCを推進する体制をより充実したものにしていく。	

３　添付資料
(1) 令和５年度　学校評価の結果

*1　SC　「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」における本校の呼称